



2019年1月15日
第641号

1部10円(組合員は組合費を含む)
郵便振替0960-7-117274

Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

発行 大阪教育合同労働組合
Education Workers and Amalgamated Union Osaka(EWA)
発行人 大橋 裕子
連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

委員長
年頭あいさつ

私たちは黙らない！



大橋裕子執行委員長

新しい1年が始まりました。

年末年始バルセロナに滞在していました。元旦の朝、いつもより人通りの少ない街を散歩していた時のことです。アパートのバルコニーに吊された1枚の横断幕の言葉に目が止まりました。そこには「スペイン政府は私たちの民

主義を殺したが、カタルーニャ人を黙らせることはできない」と書かれていました。

2017年10月1日カタルーニャではスペインからの独立を問う住民投票が行われました。住民投票は独立支持派が勝利しましたが、今でも独立運動を率いた活動家や政治家が拘留され、亡命を強いられてい



る者もいます。家々のバルコニーには、彼・彼女らの釈放を求める意思表示として、旗や横断幕、イエローリボンが掲げられていました。

この横断幕を目にした時、「辺野古に基地はいらない」と何度選挙で民意を示しても、その民意を徹底的に踏みにじり、辺野古に土砂を投入し、工事を強行する日本政府と、それでも諦めずに抗議の声をあげ、キャンプシュワブ前に座り続ける人々の姿が思い浮かびました。この言葉は「日本政府は私たちの民主主義を殺したが、沖縄の人々を黙らせることは出来ない」にその

まま置き換えることが出来ます。

沖縄のことに限らず、この6年で安倍政権は、あらゆることに渡り私たちの民主主義を数の力で殺してきました。ここで諦めれば、私たちは永遠に民主主義を手放すことになるでしょう。教育現場を取り巻く状況も、さらに息苦しさを増しています。このまま黙り続けるか、職場の仲間や保護者、市民らと手を取り声をあげ行動に移すか、私たちが問われています。正念場の時。私たち教育合同は、この1年も黙らず、声を上げ続けます！大橋裕子(執行委員長)

「会計年度任用職員」について大阪府・大阪市が一部提案

地方公務員法(地公法)の改正により新たに設けられる「会計年度任用職員」に関して、昨年末、大阪府、大阪府が組合に対して一部提案を行いました。2020年度より非常勤職員を会計年度任用職員(パート)とし、地公法適用の労働者とする事で多くの労働条件の変更が行われます。その中でも、地方自治法改正により期末手当の支給を可能とする要件について提案がなされました。現在のところ、府、市ともに週15時間30分以上の勤務を行う者を対象とするとしています。

非常勤講師の働き方はどうなる？



勤講師です。現在、明示されていない非常勤講師の勤務時間を期末手当の支給要件の算出に合わせ、1コマの授業単位を1時間と計算するという内容が示されています。組合は非常勤講師の労働時間について労働基準監督署にその実態を申告し、労働時間の適性な把握が必要であることを要求してきました。支給要件の計算上必要とされる単位への

書き換えは非常勤講師の働き方の是正には至りません。また、大阪府は労働時間、賃金に影響するこの書き換えを提案せずに、参考資料の中に忍ばせています。

今回の地公法改正は、「非正規」の処遇改善を契機とするものです。労働契約法第20条による「非正規」への不合理な労働条件の禁止を命じた判決も出るなか逆行は許され

ません。制度への疑問、要求など組合へ意見を寄せてください。組合は新たな労働条件について労使間の合意を要求していきます。

酒井さとえ(書記長)

当面の日程

1月26日(土)14時~ 組合事務所
臨時職員・講師雇用継続要求闘争
総決起集会 *臨時職員・講師のみ
なさんは必ず参加してください!

2月2日(土)14時~ 大阪国労
会館(JR天満・地下鉄扇町駅)
Tネット総会・講演会「憲法学者
西原教授が訴えたかったこと」
空野佳弘弁護士 / 「大阪の学校現場から」辻谷博子組合員

2月2日(土)19時~
アクア文化ホール(阪急曽根駅)
『今だから語りたい! 森友問題の
「真実」』対談: 相澤冬樹さん
(元NHK記者・現大阪日日新聞論説
委員) / 木村真さん(森友学園問
題を考える会・豊中市議)ほか

非常勤講師の労働時間を勝手に変更

組合は、1月9日に大阪府と、10日に大阪市と団体交渉を行いました。学校現場で多くを占める非常勤職員は非常

株式会社ウイザス支部 賞与の大幅減額に組合が「待った」をかける

学習塾第一ゼミナール等を運営する株式会社ウイザスが、11月に行われた会議にて「冬期賞与を大幅減額する」との通知が突如行われました。

これまで賞与について、大きな増減に関する話がなかったため、団体交渉の事案に挙げてはいませんでしたが、社員の待遇に関する影響が甚大であるため、12月21日に団体交渉を実施しました。

組合の要求は、賞与の水準を昨年度並に戻すこと、賞与の分配基準となる資料を提示し、今回の判断に至る根拠

拠を説明することの二点に絞り、回答を求めました。しかし会社からの回答は、残念ながら我々の期待に沿うものでは全くありませんでした。

会社は、「先日の会議で報告した賞与の減額は、正しくは『賞与の原資の減額』であり、全員の賞与を一律下げているものではない。資料を出すことは会社の判断としてできない。業績などの諸表は各校舎の責任者が閲覧できる権限を有しており、社員が各自で確認すべきである」、といったものでした。

実態は、支部が認識している範囲の社員は、全員が大幅に減額されています。また、会社が行う校舎の業績評価や人事評価については、賞与金額で推察するしか方法がなく、どのような基準・方法で評価されているのか、公平公正に評価されているのかなど、社員は誰一人として知ることができません。

団交での会社からの回答は、社員の不安や疑問に全く答えられておらず、また校舎ごとに業績等の閲覧をするよう指示やアドバイスを受けたこと

もないので、組合は会社に対して、社員への丁寧な説明および今回の結果についての質疑応答を含めた場を改めて設けることを要求しています。

これまでも組合は「人事評価基準が不明確過ぎる」と会社を追及してきましたが、会社は回答を避け続けています。今回の賞与大幅減額をきっかけに、支部組合員のみならず、社員全体からも不満が噴出しています。安心して働ける職場を目指し、社員のみならず、私たちと共に立ち上がりましょう！村上淳一（ウイザス支部）

子どもをテストで追いつめるな！ 12.22大阪集会開催

昨年8月2日に吉村大阪市長が「学力テストの点数によって教員などの評価を行い、給与格差をつけていく」という方針を表明して以降、様々な反対意見が噴出しました。その様々な意見を集約し、方針を撤回させる運動の出発点として「子どもをテストで追いつめるな！12.22大阪集会開催」が開催されました。会場となったエルおおさか大会議室は、180名を超える人に埋めつくされ、熱気に溢れていました。

大阪市の保護者でもある 専門家からの問題提起

まずは、『新自由主義的な教育改革と学校文化』などの著書もある京都造形芸術大学の濱元伸彦さんからわかりやすい問題提起がありました。吉村市長の提案根拠となっている大阪市の「学力」は決して下がり続けている訳ではないこと、テスト対策で膨大な時間とエネルギーが浪費される可能性があること、既にイギリス・アメリカ・オーストラリアで似たような政策で大きな問題が起こっており、教員や保護者の粘り強い運動で跳ね返していることなどです。

超個性的なパネラーの方々

京都精華大学の住友剛さんは、「ヤング・ケアラー」と呼ばれる生活がしんどい子どもの立場からすると、学校や教員との「つながりの糸」を

断ってしまう恐れがあることを話されました。大阪市の保護者でもある弁護士橋本智子さんは、子どものためではなく国のための教育に傾いていく危険性を指摘されました。現職の大阪市教員は、今回のチャレンジテスト実施と評価基準への反映がいかに無茶苦茶であったのかを具体的に説明されました。

会場からも多様な発言

フリースペースひまわりスタッフの小川裕子さん、大阪市の保護者の佐々木サミュエルズ純子さん、国際理解教育に関わる在日三世の方、教員のサポートに関わる教育コーディネーターなど、多様な参加者からの発言が行われました。多様な子どもたちを受け入れ、共に学ぶ環境を創ってきた大阪の教育を踏みにじり、教員たちの地道な努力を理解しようとしないう吉村市長の方針に悔し涙が流れました。

Let's Speak Up!

『Let's Speak Up!』これは濱元伸彦さんが言われていたことばです。学校教育を豊かな学びの場として守るため、今こそ私たちはしっかりと手をつなぎ、意識を共有して声を上げていくことが大切です。この集会をその運動の出発点にすることを、最後に参加者全員で確認しました。

増田俊道（書記次長）

文化おちこち

(211)

映画・演劇・音楽は自由をめざす！

【その6】

二人の名優

朗読劇「線量計が鳴る」

（脚本・出演：中村敦夫 @旭区民センター）

スライドで「SPEEDI、核種、プルーフ…」などの言葉が映し出される。その前で語るのは福島の前原元発労働者。検査での不正に異議を唱えたことで退職を迫られ、農業をするために飯館村に移住した。そして大震災、原発事故。放射性物質の飛来を行政が隠蔽したことによって被曝、さらに強制避難。

中村敦夫は福島弁のひとり語りで東電、原子力学者、官僚ら原子力村の利権、自己保身を告発する。「マンハッタン計画、IAEA、放射研…」とスライ



ドは続き、「核の平和利用」の嘘が暴かれる。

最後に中村敦夫は「2時間立ちっぱなしで演じても疲れない、反対に元気になる。それは怒りがあるから。私憤ではなく、公憤・義憤である」と語った。

熒光群「サイパンの約束」

（作・演出：坂手洋二、主演：渡辺美佐子 @伊丹アイホール）

サイパン玉砕の生き残り大城春恵（渡辺美佐子）の手記を現地で映画化するというストーリー。戦前のサイパン移民の7割は沖縄出身であった。戦況悪化で日本から放棄され追い詰められた住民は、手榴弾や剃刀で自決、バンザイクリフでの集団自殺を強いられる。「万歳と叫んで飛び降りたのではなく、落ちる時に手が上がってしまうのが万歳の姿に見えた」。劇は歳をとった春恵が自らの役を演じ、人生をなぞり始めるところで終わる。渡辺美佐子はハンセン病患者強制隔離を描いた「お召し列車」にも出演、坂手洋二作品には映画検閲を題材にした「天皇と接吻」がある。

（田中浩昭・高校支部）



クイーンフレディ・マーキュリーの半生を描いた『ボヘミアン・ラプソディ』が異例のロングラン そんな中、ギター

のブライアン・メイは辺野古新基地建設反対の署名を呼び掛けている 彼の隠れ名曲と言えば日本語でも歌う'Teo Torriatte' 手を取り合って新基地反対！